

大学へ寄贈した施設・設備等



飛鳥文化研究所・植田記念館

関西大学での教育を援助する一環として、 70年にわたり施設・設備などを寄贈

終戦直後の関西大学は、荒廃した学舎、教材の不足、食料難と言葉では表しがたいほどの窮状を呈していた。大学の荒廃を目の当たりにして立ち上がった父母・保護者有志で結成された教育後援会では、復興に寄与するため各種施設や設備を寄贈してきた。その精神は脈々と受け継がれ、現在に至る。



「大学前駅」(1922年～1964年)

1948

■ 初期の後援活動

戦後間もなくの1948(昭和23)年、教育後援会は各教室のマイク設備、ベンチ、天六学舎の夜間照明装置などを寄付。ベンチは色鮮やかなグリーン色で、裏面に「関西大学教育後援会」と白字で大書したものの30台を校庭に設置して、学生たちの憩いの場となっていた。また、狭くて設備の悪い「大学前駅」の拡張と駅舎の改修を阪急電鉄当局と交渉し、最小限とはいえ整備されることとなったのもこの頃である。

1949

■ 図書の寄贈

図書館の図書や雑誌を購入する一環として毎年一定額を寄付。また、「細江文庫」「頼原文庫」などまとまった「文庫」を寄贈した。1949(昭和24)年1月に開庫式が行われた開架式図書室に配架された図書は、教育後援会の寄付によって購入されたものであった。



開架式図書室で読書する学生

1949

■ 体育会館・体育実技場

1949(昭和24)年11月に木造2階建ての体育会館、1952(昭和27)年に体育実技場を建設して大学に寄贈。当時、日本の大学としてはトップクラスの設備であった。なお、体育会館は当初学生ホールとして使用され、現在の第2学舎2号館と4号館あたりにあった。

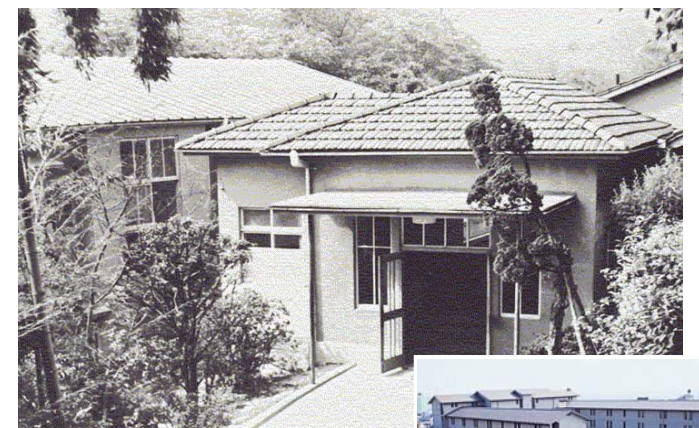


体育会館と体育実技場(1952年撮影)

1953

■ 秀麗寮

戦後間もなくの住宅難は学生にも及んでいた。その窮状を救うべく千里山キャンパス南に隣接する建物を購入し、年次計画で寄付。木造平屋建て(一部2階建て)4棟からなる学生寮「秀麗寮」が完成し、1953～1988(昭和28～63)年まで学生たちに活用された。現在は鉄筋コンクリート4階建て(一部5階建て)となり、男子専用の寮として活用されている。



秀麗寮(1953年撮影)



現在の秀麗寮

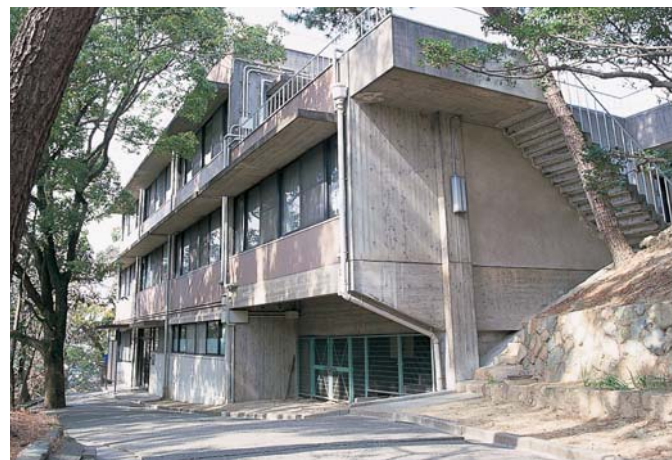
1956

■ 教育会館

1956(昭和31)年、教育後援会創立10周年記念事業の一環としてキャンパス外苑内に鉄筋2階建ての教育会館を建設。鉄筋2階建ての建物で「校友・父母会館」が建設されるまで、ここを教育後援会本部事務局として使用した。



教育会館



教育会館と隣接する別館

1961

■ 教育会館別館

1961(昭和36)年、教育後援会創立15周年記念事業として、鉄筋3階建ての教育会館別館を教育会館隣に建設した。これは課外活動の合宿所にあてる目的で建てられたもので、学生の自治活動の場として使われてきた。現在は大学の事務室となっている。

1964

■ 競泳用プール

関西大学創立80周年記念事業の一環として、1964(昭和39)年に「50m 9コース競泳用公認プール」を建造して寄贈。1989(平成元)年に100周年記念会館が建設されるまでは授業や課外活動などで使用されていた。



競泳用プール(1988年撮影)

1965

■ 植樹・肥料の寄付

教育後援会は、千里山キャンパスの学園緑化運動を提唱し、前進させてきた。1965(昭和40)年11月、創立80周年記念事業として関西大学会館の前庭ロータリーにトウジユロを植樹したのをはじめ、サクラ、イチヨウ、ツバキなどを植樹、また樹木用の肥料の寄付も行った。



教育後援会に贈られた感謝状(1967年)



1975

■ 飛鳥文化研究所・植田記念館

1974(昭和49)年、教育後援会会長の植田正路・拡子夫妻から森本靖一郎幹事長を通じて、研究施設建設のための寄付の申し入れがあった。この寄付をうけて、1975(昭和50)年に合宿・研修施設「飛鳥文化研究所」が実現。植田氏への感謝の意を表するため、正式名称を「関西大学飛鳥文化研究所・植田記念館」とすることが理事会で決定された。その後増改築を重ね、宿泊棟も整備されている。



飛鳥文化研究所・植田記念館

1997

■ 白馬杵池高原ロッジ

教育後援会が創立50周年を迎えた1997(平成9)年、記念特別事業として長野県杵池高原に鉄筋コンクリート造3階建ての「白馬杵池高原ロッジ」を建設して、寄贈。2007(平成19)年には木造の別館がオープンし、本館・別館合わせて72人が宿泊できるようになった。



白馬杵池高原ロッジ

1999

■ 六甲山荘

1999(平成11)年、学生・生徒・教職員が利用できる鉄筋コンクリート造3階建ての研修・福利厚生施設「六甲山荘」を寄贈。2006(平成18)年には、隣接して別館が建設され、本館・別館合わせて最大54人が宿泊できるようになった。



六甲山荘入口

2004

■ 千里凱風寮

2004(平成16)年、スポーツ・フロンティア入試による入学生やスポーツ競技の成績優秀な学生の生活拠点として、鉄筋コンクリート造3階建ての「千里凱風寮」を寄贈した。部屋はすべて個室で、50人が入居できる。



千里凱風寮

2009

■ 校友・父母会館

教育後援会が本部事務局として使用してきた関西大学教育会館の老朽化が進み、耐震性にも問題があったため、建て替えを検討。教育後援会・校友会・大学の三者で新たに建設することとなった。2009(平成21)年に完成した建物は鉄筋コンクリート造地上3階地下1階建てで、「校友・父母会館」と名付けられた。



校友・父母会館

2016

■ 千里山キャンパス 新アクセス・エリア内エスカレーター

関西大学が創立130周年を迎えた2016(平成28)年、記念事業の一つに「千里山キャンパスに新たなアクセス・エリアの創出」が挙げられた。教育後援会では会の創立70周年記念事業(山本和良会長、芋縄隆史実行委員長)も兼ねてエリア内エスカレーターの建設資金3億円を寄付、8月に阪急「関大前駅」北口の東側に完成した。



千里山キャンパス新アクセス・エリア内エスカレーター

博物館などのコレクションの蒐集に協力

簡文館などが所蔵する資料は、大学における知的生活を豊かにするものとして重宝されている。以下の資料は、森本靖一郎氏のご尽力により収められた作品である。

- ・松浦莫章氏の絵画
- ・木村盛康氏の天目茶碗
- ・古代アンデスの秘宝
- ・近世から近代の金銀貨幣
- ・清朝期の古硯と古墨(南部コレクション)
- ・箏3面
- ・鈴木葩光氏の書画

その他、上野道善氏(書画)、酒井布二氏(絵画)、松井繁氏(絵画)、渥美静子氏(絵画)、岡本和郎氏(陶器)らによる多数の作品



神面文壺(ナスカ文化)